

令和6年度 幼児教育研修（年齢別担任研修4歳児・第2回）  
「4歳児の子どもの発達と保育者の関わりについて」  
～葛藤して仲間と育つ4歳児保育で大切にしたいこと～  
日時：令和6年7月2日（火）15：00～17：00  
会場：足立区勤労福祉会館  
講師：東洋英和女学院大学 教授 塩崎 美穂 氏



遊びの場面（動画）を見て、子どもの姿についてグループで話合いました。

### 事例1



H君は、プールの水面にアメンボを見付け保育者にとってもらうようお願いをする。保育者からアメンボを受け取ると、いつも虫を捕まえて入れておく一輪車へ移し替える。たくさんの子もたちが一輪車の周りに集まってくる。

### 子どもの姿

アメンボを最初に見付けたH君は、アメンボを捕まえたり触ったりしている。その横で**他の子は手を出さない**。

H君と手がぶつかった児が「ごめんね」と謝るが、**H君は全く気にしていない**。

洗面器から台車へ移した時に、水量が減ったことに気付き、水を足し始める子がいる。

台車に水が増えると、今度はたらいに移し替える。するとたらいのふちをアメンボが登ってくることに気付く。

たらいに砂や草を入れてアメンボが登ることを防ごうとする。そのうちにアメンボの姿が見えなくなる。**「もぐったんじゃない？」と誰かが言う**。



子どもたちがたくさん集まったけど、トラブルにならずに遊んでいるわ



いつもなら、押し合い圧し合いになる場面のような気がするんだけどな



「もぐったんじゃない？」という友達の意見を誰も否定していないわ



水を足す子、砂や草を入れる子など、自然と役割ができていくな

魅力的な遊びや教材（生き物）に出会った時は、自然と寛容になり、受け入れ合って遊ぶ姿がある。

子どもたちに聞いてみたい



塩崎先生

アメンボの姿が見えなくなったら、H君はたらいに入って水遊びを始めたけどなんでなんだろう？ アメンボの真似？



担任保育者

H君の興味は、水に入って遊ぶおもしろさへと変わったのではないかな？



保育者の見立てだけでなく、子どもの思いを聞いてみると、**子ども理解**につながっていく。子どものワクワク・ドキドキを**共有**する。

他にもこんな・・・

「生き物との出会い」エピソード

ウシガエルと小さいカエル

ミミズをあげようとしたら口を開けたウシガエルから小さなカエルが飛び出した!!



カマキリとトノサマバツタ

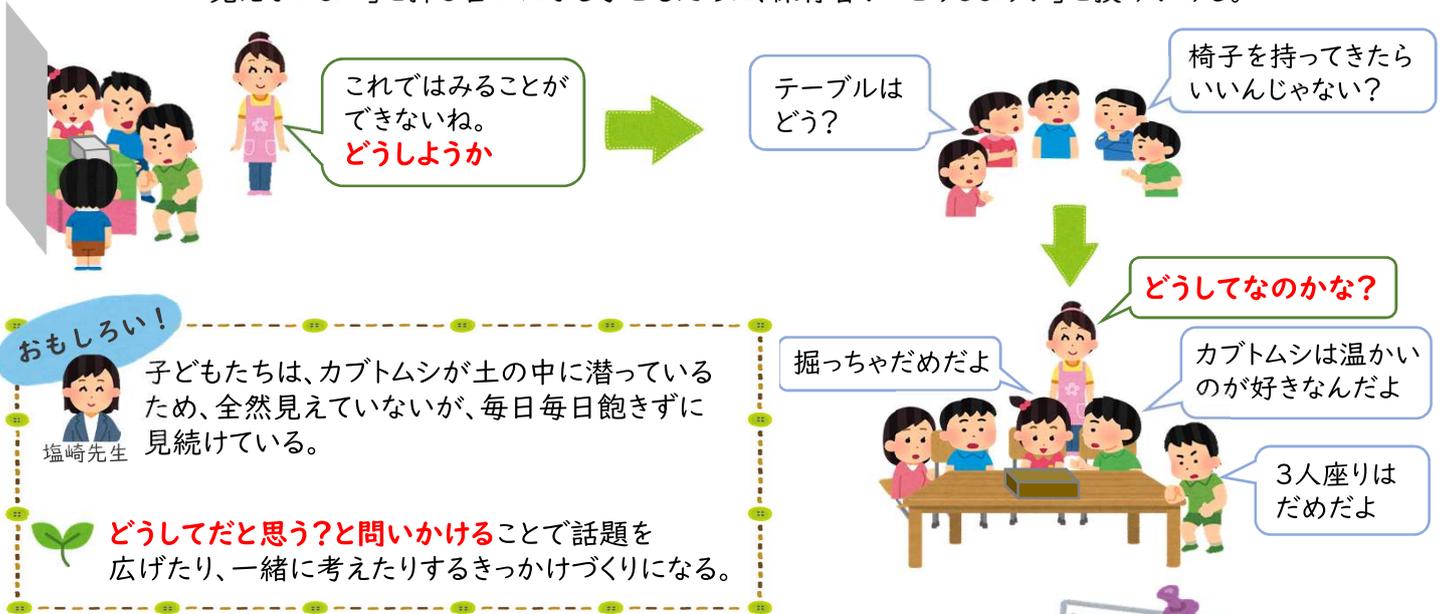
カマキリにトノサマバツタが食べられた!!

「トノサマバツタ、かわいそう。」  
「カマキリだってかわいそうだよ。だってエサを食べないと、死んじゃうんだよ」

自分たちの思いや考えを超えるような「生き物との出会い」は、いざこざにはならない。

## 事例2

3歳児クラスの時から育てているカブトムシの幼虫に関心をもち、見たい子が集まってくる。「見えないよ～」と押し合いになる子どもたちに、保育者が「どうしようか」と投げかける。



## 他にもこんな・・・

### 「生き物との出会い」エピソード

園庭のタイヤが置いてある場所にカエルが出てくるため、子どもたちは毎日探すことを楽しんでいる。飼育ケースに捕まえて、観察したあと逃がしている。

“子どもが思う知りたいこと&楽しいことに出会う瞬間”について話し合いました。

### 先生たちに聞いてみたい



塩崎先生

飼育しないの?  
川や芝がない園庭にカエルが出てくるのはなぜ?  
オタマジャクシはいないの?  
エサはあげたことあるの?  
カエルについて図鑑などで調べたりした?



保育者の役割は、「I wonder」＝「～だと思っ」「疑問に思っ」「知りたいと思っ」を意識し、子どもたちの興味あることから、ワクワクを育て、知識、教養へとつなげていくことである。

## 事例3

女児数名で猫ごっこが始まり「〇〇にゃ」となりきっている。「引っかけたにゃ」と親猫が見せに来たことで、病院ごっこに変化した。



### 友達との関係性

しっかり者の女児が、「この子が噛みついたんです」と母親役に伝え、ごっこ遊びを進めている。新入園児もなんとなくごっこ遊びに参加しているが、少し離れたところから見ている感じ。「注射しますよ」と言われ、本当は嫌だが、ごっこ遊びには参加している。

### 保育者の関わり

子どもたちの関係性を観察しながら、ト書きや設定を楽しむ。  
保育者は、設定が変わったり、場面が移動できそうな時に、子どもたちの力関係が和むような関わりを持つ。  
なんとなく参加している児も居心地よく楽しめるように子どもたちの中に入って行く。

## 研修生の報告書より

- \*子どもと一緒にワクワク、ドキドキする時間を作っていくためには、子どもに合わせて知識や教養の中から“ひらめき”をどのように出せるか、保育者の力量にかかっていると学んだ。子どもの心が動く瞬間を見取り、子どもたちが生きていくために必要な経験を保証する保育を心がけていきたい。
- \*子ども同士のいざこざが多い場面に対して保育者の援助や環境構成など検討しすぎていることに気が付いた。保育者の目の向け方により見えてくるものが違うこと、「いざこざにならない場面はどのような時か」と逆の発想から考えていくことによって、子どもたちが何に興味をもっているのか、楽しんでいるのかを捉えることにつながると学んだ。